

# 公文書館だより

第41号

令和4年10月3日



当館では、8月25日（木）から10月16日（日）まで、企画展「ぐつとくる古文書JIE」を開催しています。

展示は古文書のカタチからスタート。大判の紙をそのまま一枚使う「**縦紙**」たてがみ。中世に登場する紙を半分に折り、表裏を使う「**折紙**」おりがみ、江戸時代に登場する縦・横様々な帳簿形式の文書などそのバラエティに「ぐつ」ときていただきます。ついで前半展示では、菅江真澄「秋府十景」（写真）で久保田城下の名所を堪能し、江戸に関するおもしろ絵図や古文書、そして最後に本年3月に公開を開始した「伊澤慶治収集資料」の一部を展示しました。

本展示の最大の特徴は、観覧者のスマートフォンで、展示資料の説明ラベルについているQRコードを読み取り頂くと、資料の画像や詳しい付帯情報を見ることができシステムを採用していることです。

展示は前・後半で全点入れ替えし、別の趣向でお楽しみ頂けます。後半展示について詳しくは本紙2頁をご覧ください。

## 今後の行事予定

### ◆企画展

「ぐつとくる古文書JIE」  
（後半）9月28日～10月16日

### ◆公文書館講座

●記憶の護り人養成教室  
10月13日  
11月10日  
12月1日

今後の情勢によっては変更の可能性もあります。ご了承ください

## 利用案内

### ◆開館時間

平日 9時～19時  
土日祝日 9時～18時

（書庫内資料の利用申請は17時30分まで）

### ◆休館日（令和4年度）

毎週水曜日  
年末年始 12月28日～1月4日  
特別整理期間  
12月8日～12月13日

休館日についてはウェブサイト、または当館内の掲示等で御確認ください

令和4年度企画展(前半)報告  
ぐつとくる古文書LIFE  
8月26日(木)～9月25日(日)

今年度の企画展はひと味違います。まず、本誌一頁でも紹介したQR！秋田県DX推進計画に沿った当館初の試みで、当館ウェブサイトの資料解説にも直接つながります。前半展示でのQRの利用者数は、481人でした。



次に自分で作るクラフト式展示パンフレット！B4判の資料4枚を横長に半折して折目を下にして右側をこより紐で綴じれば、古文書の横帳の形になります。時代劇などで見る大福帳のイメージです。古文書のカタチを体感できる趣向で、「面白い」「しゃれてる」などの御感想を頂きました。

企画展前半では3,534人の方に御観覧頂きました。

令和4年度企画展  
ぐつとくる古文書LIFE  
後半展示の御案内

「ぐつとくる古文書LIFE」の後半展示は、9月29日(木)にスタート。展示構成は次の通り。

- ① 和紙と墨の奥深い世界
- ② 「写すんです」にぐつとくる
- ③ 秋田の美女にぐつとくる
- ④ ぐつとくる古文書セレクション
- ⑤ 「記憶の護り人」養成教室

①の展示テーマは前半と同じですが資料は一新。②～⑤は前半とは異なる展示構成になっています。もちろん展示している資料は、すべて入れ替えています。

後半展示のテーマは「昔も今も同じ人間」。現在と過去では、使用する文字や言い回しは違います。しかし、過去の人たちといえども、私たちと同じ感情を持つ人間なのです。ここではその一端を紹介しましょう。

文久3年(1863)8月、秋田藩主・佐竹義堯に京都の朝廷から上京命令が来ます。秋田藩では藩主の名代として家老・戸村十太夫が上京しますが、戸村は随員の藩士に横

手給人を加えました。久保田城下ですらめったに行くことのない横手の武士が京都へ行くのです。



よほど嬉しかったのでしょう。随行メンバーの一人である吉沢清永は、道中の様子を絵入りで克明に記録しています。吉沢は明治になってから、文久3年に歩いた道をもう一度たどり、道中から見える

山並みを描いています。

この絵は福島県の安達太良山です。明治32・33年(1899・1900)に噴火しており、山頂から噴煙が上がる様子が描かれています。展示では、吉沢が道中記に描いた絵を八枚のパネルで紹介しています。

企画展「ぐつとくる古文書LIFE」後半展示は10月16日(日)まで。皆様、お誘い合わせの上、ぜひ足をお運びください。

閲覧室からのお知らせ

閲覧室では、月変わりでは目にすることの少ない小型ブラウン管テレビにて、なつかしい秋田県の映像を放映しています。

通常は小型ブラウン管テレビですが、今年は8月25日、26日の両日、大型のスクリーンを使って、上映プログラムも閲覧室では見られない、職員が独自に編集したオリジナル映像を放映しました。今年のテーマは「ぐつとくる鉄道」。

秋田駅を中心に昭和30年代、40年代の秋田県内の鉄道の歴史を振り返りました。また、今年旧県民会館跡地にオープンしたミルハスの開館を記念して旧県民会館開館の式典の様子なども上映しました。

9月にはオリジナル映像を閲覧室で再上映し、多くの来館者の皆様にご覧いただきました。誠にありがとうございます。なお、当館では映像リストもありますのでお気軽にお問い合わせ下さい。



## 身近で特別だった鳥「白鳥」

「岡本元朝日記」から



冬の到来を告げる白鳥。湖面に優雅に浮かぶ姿が印象的ですが、体長が40cmにもなるため、翼を広げて飛ぶ姿は迫力があり圧巻です。さて、江戸時代の人々にとっての白鳥は、どんな存在だったのでしょうか。当時の人々の生活ぶりも詳しく記されている「岡本元朝日記」（混架七三八〇―一六四）から白鳥に焦点をあてて紹介します。

元禄十五年（一七〇二）三月二十六日～二十七日、元朝は二日続けて鉄砲を使った狩りに出かけています。場所はいずれも現秋田市内です。二十六日、土（侍）鉄砲の国井平内弘前を連れ、大平周辺・柳田村に狩りに出かけますが、「鳥あらく」真鴨一羽しか獲れませんでした。そこで国井に頼み、やっと雁三羽を獲ることができました。同日に渋江内膳処光は、侍鉄砲の熊谷助右衛門良直と上北手大山田・小山田周辺に出向き、黒鴨など十二羽獲っています。

続く二十七日、元朝は場所を変えて兎谷地・福嶋周辺（金照寺山のふもと辺り）に出かけますが、前日同様、成果なく帰りました。しかし、国井は四ツ小屋の小阿地村古川に出向き、白鳥一羽・菱食一羽・真雁一羽・白雁八羽・真鴨一羽・合計十二羽を獲っています。この成果に対して元朝は夕飯を振舞い、「昨今身勞いたし候故」として金子二百疋と真鴨一羽を渡しています。なお、

国井は、「国井主水分流国井氏系図」（A二八八・二二〇七四）によると、「稻富流鉄砲」の業を学んだ人物でした。同じく熊谷も代々侍鉄砲を務めた家であり、兩名とも鉄砲の名手であったと考えられます。

また、同年一月の記事では、八郎湖の西岸の野石・宮沢・福米沢において、輪繩という罠を使って白鳥を獲った様子が記されています。「絹飾」（『秋田叢書 第2巻』）では「切りぬき穴口にして其中に這入て輪繩をさし、白鳥群り来りて餌を求めんとて輪へ首筋をひつかくるを遙に見ぬいて走り行き棒を持て叩き取るなり。」と記されており、気性が荒かったと言われる白鳥の別の狩猟方法が紹介されています。

さて、狩りで獲った（時には御祝儀として拝領した）白鳥はどのように料理されたのでしょうか。日記で登場した料理は次のとおりです。（写真①）

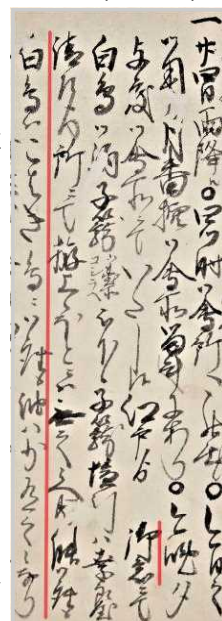
（写真①）



塩白鳥・白鳥塩引  
白鳥いり鳥・白鳥いり焼き・白鳥のわた。様々な方法で調理されていました。そして、これらの料理は、元朝の友人との

酒席で出されることもありましたが、宇留野源兵衛の自宅へ屋形様を招いた際の御膳料理など特別な饗宴の料理の一つとしても出されています。また、白鳥料理が「御意」により供された例もあります。（写真②）

（写真②）



別の用途として、白鳥一羽から五、六百本とれたとされる毛は、行列の際に使用された毛氈の先に使用されています。このように、武士の社会における白鳥は、特別なご馳走であったり、御祝儀などの贅沢な贈り物などとして貴重な意味を持つ存在だったのです。

鳥の格付けの第一は鷹狩りにより狩られた鳥でしたが、古来から瑞鳥（めでたい鳥）として珍重されてきた白鳥は、近世において鳥の種類別の序列としては、鶴に次いで上位の格を持つ鳥でした。格式の高い贈答品として扱われていた例も多くあります。前述の日記を見ても、江戸時代の人々にとって白鳥は特別な存在であったと言えるでしょう。

ところで、図②の最後に「白鳥は、こはき鳥に御座候、油は少有之候なり」とあります。この時に食べた白鳥料理は、固い肉で少し油っこい、という感想だったようです。現在は白鳥を捕獲・食することは法律上禁止されていますので、残念ながら想像の中で楽しんでみてください。

当館ウェブサイトの「令和四年度古文書解説講座 第2回」からは、今回紹介した箇所や白鳥関連の他の記事も御覧いただけますので、ぜひ御利用ください。

【一関修二】

# 秩父宮台覧ラグビー

秋田中学VS秋田工業

話の中心

秩父宮雍仁親王は「スポーツの宮様」として親しまれ、特にスキーやラグビーの振興に尽力し、現在も「秩父宮ラグビー場」は花園と並び日本ラグビーの聖地とされています。

さて、昭和十一年（一九三六）の「秩父宮同妃殿下御成関係書類」（九三〇一〇三一一九六三）には、六月二十八日（土）に日本石油秋田製油所（南秋田郡土崎港町、現秋田市）の視察後、歓待行事の一つとして将軍野遊園地（同）のグラウンドでラグビー競技を台覧に供した際の公文書が綴じられています。親王と妃は秋田県の産業・社会事業・教育などを視察する過密日程の中、午後三時半から二十五分間（ハーフタイムなし）、秋田中学校（現・秋田高校）と秋田工業学校（現・秋田工業高校）の対戦を台覧されました。

公文書には、事前調査書として「秋田県に於けるラグビー蹴球の沿革」「秋田中学校ラグビー部沿革」「秋田工業ラグビー部沿革」が添付されています。右によると、本県におけるラグビーの始まりは、大正十年（一九二一）に慶應義塾大学に学んだ武藤鉄城（秋田中学卒、考古学及び民俗学者）が秋田運動倶楽部を創立しラグビーを紹介したことによります。同十一年に秋田鉾山専門学校（現・秋田大学国際資源学部）、十三年に秋田中学校、十四年に秋田工業学校にチ

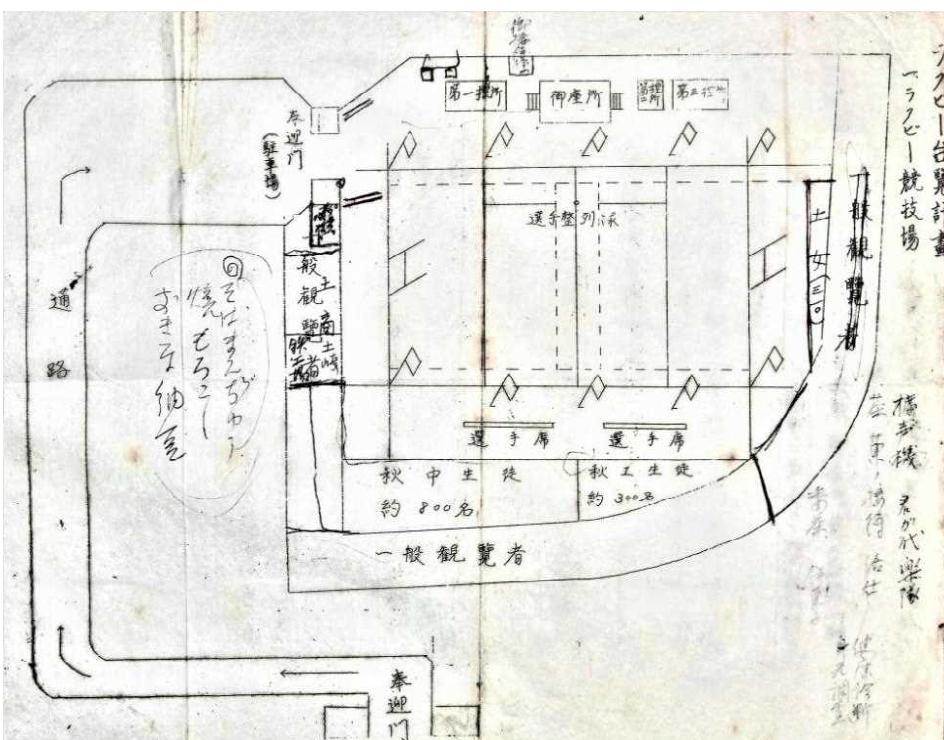
ームが次々と創立されました。秋田中学校は秋田鉾山専門学校主催の近県中等学校ラグビー大会において八回中五回も優勝しています。また秋田工業学校は昭和九年の全国中等学校ラグビー大会で強豪の京城師範学校を破って覇権を握り、同十一年五月には北日本七人制ラグビー蹴球大会でV5の快挙を成し遂げました。両校とも秋田中学卒の明治大学田中一郎選手の指導で技術が向上しました。

下図は、ラグビー台覧計画の競技場平面図です。謄写版印刷の図面に、準備が進むにつれ担当の手で手直しされています。秩父宮の「御座所」は75cmの高さの台上で、背後には「御接待係」の場所が加えられ、土崎高等女学校の生徒が御茶と菓子菓子を給仕しました。図面の左の書き込みを見ると、蕎麦饅頭や諸越、甘納豆菓子を出したのでしょうか。また「奉迎門（駐車場）」の近くに「プラスチック」の席が書き加えられています。秋田中学のブラバンが奉迎時に「君が代」を奏楽しました。「御座所」に向かい右側のゴール裏は一般観覧者席から「土女」すなわち土崎高等女学校の席、左側のゴール裏は「土商」すなわち土崎商業学校と「土崎鉄工所」の席が書き加えられています。「土崎鉄工所」は仙台鉄道局土崎工場と推定されます。

当日、秩父宮は自動車で奉迎門に到着し、児玉政知事の先導で「君が代」の

奏楽、観衆の起立・脱帽の中、「御座所」に着席、両校選手が一行横隊で整列、審判の号令で最敬礼、直ちに競技に入り熱戦の末、秋田工業が凱歌を上げました。

この年冬に二・二六事件が起き、翌年七月には日中戦争が勃発しました。戦争はスポーツにも暗い影を落とします。しかし、昭和十一年は嘉納治五郎が五輪を招致に渡欧するなど、スポーツ熱が高まった年でもありました。【柴田知彰】





## 「記憶の護り人」養成教室 の近況



今年度、当館では新しい取り組みとして「記憶の護り人」養成教室を実施しています。この教室は、ある程度くずし字を読むことができる人を対象に、未整理資料を整理し、目録を作成するスキルを持つ人材を育成することを目的に開講しました。教室は、4月から12月までの全8回、午前10時から午後3時30分まで、午前中は岡文庫「昔あふきのおも影」の輪読、午後は岡文庫の未整理資料の整理作業を行っています。

「昔あふきのおも影」は、明治時代に旧秋田藩士長瀬直清の回顧録。例えば、秋田藩の参勤交代の行列きらびやかで、沿道に人だかりがでるほどの

人気ぶり。藩主の駕籠を見ると疱瘡が治るといふ噂まであり、藩主の御召馬の下をくぐる人もいたことが記されています。秋田藩の藩主側近だけが知っている衝撃の内容は、来年3月刊行の『研究紀要』で全文翻刻の予定。皆様、お楽しみに。

教室の午後は、岡文庫未整理資料の箱に入っていた資料の塊を整理。束をくるんでいた紐を解き、元の順番を復元できるように資料番号をつけていきます。そして教室参加者に1点ずつ渡し、資料のデータを取ってもらいます。

教室の最後には参加者一人ひとりから、その日読んだ資料の内容を発表してもらいます。すると資料の塊が、明治時代、旧制秋田中学校（現秋田高校）で美術の教師を勤めた岡忠精宛てに届いた家族の書状・手紙だったことがわかりました。大阪で銀行に勤めていた長男の忠尚、同じく大阪砲兵工廠に勤めていた二男の精美、東京で割烹の学校に通う長女のカツ他多彩な人物が登場します。岡忠精は、どのような気持ちで、家族から届いた書状や手紙を荒縄でくるんだのか？今年度の「記憶の護り人」養成教室は残すところあと3回。岡忠精の心に迫ります。

## 古文書解読講座

全7回の講座を延べ111人の方々が受講され、初級編は延べ61人、中・上級編は50人の内訳でした。初級編4回の半分では昨年度に刊行を終えた『岡本元朝日記』を教材に使い、当館の翻刻事業を積極的に生涯学習に還元しました。また、中・上級編では、企画展前半で展示する古文書を教材にした回も設けました。

今回の受講者の感想をアンケートから一部紹介しましょう。初級編では、「元朝の日記を読んでみたい」「説明が丁寧でわかりやすい」「説明のテンポがゆっくりで助かった」



- ①崩し方の筆の運びに慣れる。
- ②原形からかけ離れている字は記号のように覚えてしまう。
- ③部品（パーツ）で考える
- ④定型的な言い回しを覚える。
- ⑤前後のつながりから推測する。

第1回講座（初級編）のパワーポイントより

などの声がありました。右のような古文書解読のツボも喜ばれました。中・上級編では、「仮名文字は難しいがチャレンジの機会になった」「家で教材を復習してみる」「さらに学習する意欲が出た」などの声が出た他、歴史的な背景の説明、歴史小説と史実の記録との対比など大変好評でした。古文書に書かれた内容の背景に浮かび上がる「歴史を読み解く面白さ」が伝わったようです。中・上級編では長文を読むため、進むテンポも比較的速かったのですが、勉強の機会になったと好評でした。コロナ感染症対策として、受講者数を減らし、消毒徹底とソーシャル・ディスタンスで皆様の御要望に添えていきます。

## デジタルアーカイブについてのご案内

秋田県公文書館では、当館所蔵の資料を来館していただくことで閲覧等のサービスを行っております。

ただし、遠隔地にお住まい等で御来館いただけない方のために一つの方法として、デジタルアーカイブというものがあります。

これは、当館の所蔵資料の一部ではありますがインターネットの環境があれば、パソコン、タブレット端末、スマートフォンなどから閲覧することが可能です。

現在、当館で公開している資料は約13万2千点あり、内訳は公文書約3万7千点、古文書約6万6千点、行政資料約2万9千点です。また、目録データは約13万点、画像データは約1,050点(約2万3千コマ)のデジタル画像を閲覧することができます。

主な資料を御紹介しますと、「出羽一國御絵図」(県指定文化財)など絵図が約800点、「秋田藩家蔵文書」(県指定文化財)が61点などがあります。

さらに、秋田県のデジタルアーカイブでは当館以外でも県内の社会教

育機関等が所蔵するデジタルデータを横断的に検索・閲覧が可能な便利な機能もあります。参加機関は、県立図書館、県立近代美術館、県立博物館、県立埋蔵文化財センター、あきた文学資料館、県生涯学習センターです。

デジタルアーカイブの資料の検索方法は、三つあります。一つはキー

### ● 公文書館デジタルアーカイブの検索・閲覧方法 ●

① トップページ

トップページ右上の「ヘルプ」をクリックすると、操作方法の詳細な解説ページが表示されます。

キーワード から検索したい ⇒ 「キーワード」を入力して「Q検索」

カテゴリごと に検索したい ⇒ 「カテゴリ検索」をクリック

条件を絞って 検索したい ⇒ 「詳細検索」をクリック

② 詳細条件で検索

希望の条件で検索可能！

③ カテゴリで検索

種別や資料群などのカテゴリごとに検索可能！

④ 検索結果一覧画面

一覧の中から、条件により絞り込むことも可能

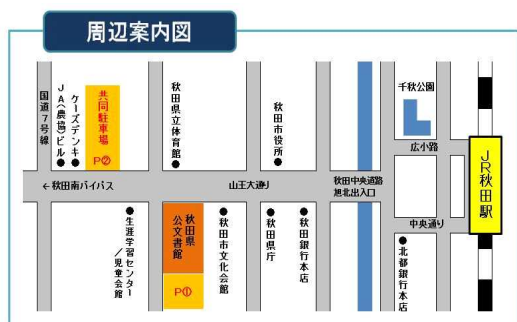
検索結果一覧から見たい資料が見つかったら ⇒ 「画像のサムネイル」または「資料名」をクリック  
↓ ↓ ↓  
「⑤ 資料詳細画面」へ

ワードで検索する「キーワード検索」二つ目は検索条件を細かく設定して検索する「詳細検索」、そして、三つ目はカテゴリ一覧から検索する「カテゴリ検索」です。詳細につきましては、トップページ右上の「ヘルプ」をクリックすると詳細な解説ページが表示されますので御活用下さい。

### 編集後記

今、8月下旬に開催された県政映画上映会でのアンケートを見ながら執筆していただきます。その中で何名かの皆様が入り印象深い複数回答がありました。それは、「この上映会をぜひ、若い人たちにも見せて欲しい。」というもの。実は御来場いただいた方のほとんどが60歳以上でこの傾向は昨年度と同じです。最近ではマスク等で告知し、平日見られない方にも1ヶ月間、2階閲覧室で常時放映するなど工夫はしていますがまだ発展途上です。今後、試行錯誤しながら実施したいと思っています。(梅)

当館ツイッターは  
こちらからどうぞ



編集発行：秋田県公文書館（秋田市山王新町14-31 県立図書館と併設）  
電話 018(866)8301 FAX 018(866)8303 最寄りバス停：県立体育館前  
URL <https://www.pref.akita.lg.jp/kobunsyo/>